

一 (41点)

- 問1 各2点 a 義務 b 厳 c 試 d 簡単
- 問2 各2点 A イ B オ
- 問3 各2点 a 歌は生き生きとしたものになる b 歌の力も弱くなってしまっ
積極的
- 問4 2点 谷川俊太郎さんの立場は、定型というものを否定しているのに対して、筆者の立場
は、定型というものを信じているという違い。
- 問5 5点
- 問6 3点 工 「五音七音」
- 問7 3点
- 問8 各2点 C の D 一人
- 問9 各2点 a なめらかに b 結句 c 体言止め d 後戻り

解説

問5 (読解・内容把握)

「立場の違い」を問う問題なので、それぞれの「立場」を指す部分をチェックして、「」の立場は「」のに対して「」の立場は「」という違い。「」というふうに、「違い」を意識した答え方を
するのがポイント。

問9 (空欄補充問題)

―線部 の直前に「このように」という言葉があるので、―線部 は前の段落など、大きな
かたまりの内容を受けてまとめた言葉であることがわかる。前段落の具体的説明からそれぞ
れの歌の解説を読み取ることがポイント。問題の説明文の空欄前後の言葉を手がかりにする
とよい。

二 (33点)

- 問1 各2点 A 工 B ウ C ア
- 問2 3点 イ
- 問3 2点 ウ
- 問4 5点 級友達が爆笑したので初めて自分の答えが間違っていたのだと思って恥ずかしかつ
たけれど、もう取り消せないから。
- 問5 3点 春美は学校
- 問6 5点 春美が今年級長になれなかったのは、去年と違って大倉先生がひいきをしなかった
からだという風評。
- 問7 3点 工
- 問8 3点 ア
- 問9 3点 イ

解説

問4 (心情把握問題)

―線部 の直前の1文をしっかりおさえる。「渦巻き」など一般的ではない表現をその前の部
分をふまえて置きかえ、赤くなつてつむくのはどついつ心情からかと考えて答える。「どつ
してか」と理由を問う問題なので、「」から「」という文末表現にすること。

問6 (指示語・内容把握問題)

―線部 「そういう風評であった」の「そういう」という指示語の内容を問う問題。指示語
の問題は原則的にまず直前の部分をチェックすることが大切。この場合、「春美」についての
「風評」なので、主語も入れて「春美が」風評」のように答える。

- 【三】(10点)
各2点 ア ない イ もし ウ ください エ ようだ オ か

【解説】(文法問題) 副詞と文末の呼応を問う問題。この言葉がきたら文末はこうなるという慣用的に呼応する表現をおさえておく。

- 【四】(16点)
各2点 おおざと・11 にく・にくづき・つきへん・10
ふね・ふねへん・10 やまいだね・12

【解説】(漢字の部首・画数) 主な部首名をおさえておくこと。画数の数え方を確認しておく。

【出典】

- 【一】 俵 万智 『短歌をよむ』(岩波新書)(岩波書店)(1993年)

- 【二】 木山捷平 『尋三の春』(講談社文芸文庫)(講談社)(1994年)

【出題のねらい】

- 【一】 短歌のリズムについて説明し、具体例を出すことでわかりやすく述べている文章。説明をたどりながら筆者の主張をつかみ、具体例において対応している部分をおさえることをねらいとしている。

- 【二】 学校の教室の一面面を通して、少年の心情の変化を描いた文章。少年の置かれた状況や心情をとらえるのをねらいとしている。

- 【三】 副詞と文末の呼応関係を問うことをねらいとしている。

- 【四】 漢字の部首と画数を問うことをねらいとしている。

【講評】

- 【一】 漢字の書き取りはよくできていた。問3の接続語の問題はやや正答率が低かった。空欄の前後の文がどういふ関係なのかを意識して答えること。問5もやや正答率が低かった。問8のこはやや難しかったようだが、空欄のあとに「」がでてくるので、ここが手がかりになる。つながる働きのある音は何かと考えて答える。問9のaもやや正答率が低かった。問題の説明文の空欄直後の「つながっており」という語をてがかりにすると探しやすかった。

- 【二】 問5は正答率が低かった。現代では靴は当たり前のもので、「春美は学校中であた一人靴をはいていた」というところと金持ちであることが結びつかなかったようだ。昔の時代のもものは今とちがうという意識を持って読む必要があるので気をつけよう。問6は指示語の問題。誰のどんな評判を指しているのかと考えながらまとめる。選択問題はよくできていた。

- 【三】 副詞と文末の呼応の問題は非常によくできていた。

- 【四】 の部首と画数の正答率が低かった。「郷」の「おおざと」は頻出なので覚えよう。画数も難しかったようだが、字を書くときの切れ目を意識することが大切。